

造園業がうなぎいもで地域活性化 (有限会社コスモグリーン庭好)

＜法人の概要＞ 所在地：静岡県浜松市

設 立：平成 16 年 9 月（大正 2 年創業）

資本金：900 万円 売上高：23,000 万円（平成 24 年）

（うち農業及び農業関連事業：3,500 万円）

役 員：7 名（うち農作業従事 2 名）

従業員数：常時雇用者 10 名、臨時雇用者 23 名（うち農業従事者 16 名（生産 6 名、1 次加工 6 名、菓子製造 4 名））

経営面積：6.0ha 営農作物：サツマイモ（品種：紅はるか）

農業開始時期：平成 22 年 9 月



サツマイモの収穫の様子



収穫したサツマイモ

＜農業参入に至った経緯・動機＞

・当社は、もともと大正 2 年から個人事業主として造園業を営んでおり（平成 16 年に法人化）、造園業で生じる剪定木等の廃棄物を自社の廃棄物処理施設で処理し、当該廃棄物を使った堆肥を製造・販売していた。しかし、仕事量に波があるため、労働力を通年活用することが出来る業務を探していた。

・そこで、農業であれば労働力の通年活用が可能であり自社産の堆肥も活用できること、また当社が農業参入することで当社の廃棄物処理施設の設置を受け入れていただいた地域が抱えている担い手不足や耕作放棄地問題の解消に貢献したいと考え、農業参入することとした。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

・農地については、知り合いの農家、静岡県西部農林事務所、浜松市及び袋井市からの紹介で借り受けた。借り受けた農地は、全て耕作放棄地であった。

・作物については、サツマイモであれば、収穫や植え付けの時期の融通がきき、加工や貯蔵が可能であるため、本業の労働力を柔軟に配分できる点で都合がよいと考え、決定した。

・受けた支援については、国の耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用し、耕作放棄地の再生とハウス整備の補助を受けた。

・苦労した点は、農業参入についての住民説明会の開催や農地を借りるための書類の作成である。

<営農開始から現在まで>

- ・販路については、生産したさつまいもを「うなぎいも」としてブランド化し、生鮮のほかペーストにして製菓店に販売している。また、ペーストを自社の施設でプリンに加工してサービスエリアや浜松駅、本社隣接の直売施設等で販売している。
- ※「うなぎいも」とは、うなぎ加工業者等から集めたうなぎの頭や骨などの残さを投入し生産した堆肥を活用して栽培したさつまいもに対して取得した登録商標で、うなぎいも生産組合に加入している農家の生産物及び審査会で認定を受けた加工品（菓子）に使用されている。
- ・栽培技術については、当初は農協の営農指導員や農家の指導を受け、その後は独学で学んで身につけた。
- ・国の 6 次産業化推進整備事業でのペースト加工施設のほか、浜松市の未来を拓く農林漁業育成事業によりペーストの粉末化施設の整備について補助を受けた。
- ・苦勞した点としては、特に資金繰りや人材の確保と育成であり、販路開拓や P R 活動なども含め全てが試行錯誤の連続であった。

<今後の農業経営の展開方向>

- ・経営規模としては、当法人としての農業の売上 1 億円を目指し、本業を超えることを目標にしている。なお、地域の農業者と立ち上げた「うなぎいも生産組合」は、組合員が 35 名おり、当組合としては全体の面積として 5 年で 100 ヘクタール、最終的には 1000 ヘクタールくらいの規模にしたいと考えている。
- ・新たな作物としては、サツマイモの裏作が可能であり、サツマイモペーストの販路と重複させることが出来る加工用ニンジンを検討している。
- ・加工や新たな販路開拓への取組等として、スープ等のサツマイモ粉末の加工品を製造・販売することを模索中であり、将来的には海外への販路も視野に入れている。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

- ・農業に参入するには、何らかの本業との関連がなければ難しいと感じている。
- ・農業で儲けるのは、本業で儲けるより難しいと思うので、本業で儲かって、さらに違う展開をするために参入するべきだと考える。



本社隣接の直売施設



うなぎいもプリン